

第4学年2組 道徳学習指導案

時 間 第3校時
場 所 第4学年2組教室
指導者 教諭 川名 あゆみ

1 主題名 自分の命と相手の命「はるかのひまわり」

2 主題について

(1) 主題設定の理由

本主題でねらいとする価値は、新学習指導要領第3学年及び第4学年の内容のうち、「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。」〔生命尊重〕〔内容項目3－(1)〕である。この価値は、高学年の〔内容項目3－(1)〕「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」に発展するものであり、生命あるものすべてをかけがえのないものとして尊重し、大切にすることを児童の育成をねらいとしている。

中学年になると、現実性をもって死を理解できるといわれている。家族や身近な人の死を体験した児童や、幼少時期の病気やけがの話聞いた児童もいるであろう。よって、この時期に生命の尊さを感じさせることは、重要であると考えられる。

近年、地震や大雨による災害により、多くの犠牲者が出たことは、児童もテレビや新聞等で知っていることと思う。しかし、実際に大きな災害を体験したことのない児童にとっては、その辛さや悲しみは予想しにくいことである。ましてや、身内を亡くした悲しみは理解しがたいであろう。

そこで、本単元では、阪神淡路大震災における実話を基に、人の命はかけがえのないものであり、尊いものであることを実感させたい。そして、多くの人々に見守られてきたお陰で今の自分があること、クラスの友達や周りの人々の命も、かけがえのない大切なものであるということに気付かせ、生命を大切にしようとする気持ちを高めさせたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

男子18名、女子15名、計33名の学級である。明るく活発で、休み時間は外で元気に遊んでいる。また、友達を思いやる姿も多く見られ、何事にも互いに助け合いながら取り組める子どもたちである。帰りの会では、互いの良さを賞賛し合う「きらきら賞の発表」を一学期から続けており、友達の良さや自分の頑張りに気付くとともに、互いに認め合う雰囲気も出てきた。

しかし、死や命を軽視した発言をする児童も少なくはない。ささいなトラブルから感情を抑えることができずに、「死ね」「殺す」といった言葉を軽々しく口にしてしまう。また、一学期に行われた避難訓練の様子からは、自然災害に対する恐怖感や危機感はあまり感じられなかった。

本時の資料と関係のある「命」について、どのように考えているのか調査を行った。

「命とはどんなものですか」という質問では、全員が「大切なものである」と答えた。中には、命は一つしかないものだ、生きていくためには必要なものであると答えた児童もいた。命は大切であるということは、全員が理解しているということが分かった。

「命を考えるときはどんなときですか。」という質問では、事故に遭いそうになったとき（事故を見たとき）と答えた児童が多かった。また、葬式に行ったときや病気になったときに、命のことを考えたと答えた児童もあり、生死にかかわる体験を通して、命の重さを感じていることが分かった。

この結果から、児童は命の大切さは少なからず理解しているものの、それは一時的なものであり、普段はあまり意識していないということが分かった。このことは、学校生活での言動からも読み取ることができる。

(3) 指導にあたって

児童の実態を踏まえ、本時では次のような手立てをもって指導にあたりたいと考える。

本資料は、阪神淡路大震災における実話である。以前、岩手宮城内陸地震を経験している児童にとっては関心のもてる内容である。そこで導入では、写真や資料を準備し提示することで、資料への興味・関心を高めたい。

資料の読み聞かせでは、震災の様子をイメージさせ、登場人物の気持ちに共感させる手立てとして、効果音 CD や写真を活用したい。地震の怖さを目と耳で感じ取らせることで、当時の人々の心情に近付けると思われる。また、授業への意欲を高めるために、挿絵や写真をプロジェクターで提示するなど、ICT も積極的に活用したい。

授業後半では、児童一人ひとりに自分の思いや考えを深めさせる工夫として、書く活動を取り入れる。その際、必要な時間を確保することで、自分の思いや考えをしっかりと整理させたい。また、発表の場や話し合いの時間を設けることで、意見の共有を図り、道徳的価値をより強く自分とのかかわりでとらえられるようにしたい。

授業の終末では、命に関する絵本を読み聞かせることで、道徳的価値に対する思いを、更に深く心に留めさせたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

「はるかのひまわり」の意味を知り、自他の命を大切にしようとする気持ちを養う。

(2) 資料

- ①資料名 「はるかのひまわり」
- ②出典 みんなで考える道徳 (日本標準)
- ③資料の分析 (分析表 別紙1)
- ④資料について

本資料は、阪神淡路大震災における実話である。震災の犠牲になった妹のはるかさんと、生き残った姉のいつかさん。愛する妹を亡くし、自分だけが生き残っているという罪悪感に悩み苦しんだいつかさんが、たくさんの人々との出会いを通して、悲しみから脱し、前向きに生きていくという内容である。

児童は以前、岩手宮城内陸地震を経験しているため、少なからず地震の怖さを知っている。よって、資料からいつかさんの気持ちを読み取ることで、残された人の悲しみや苦しみを感じ取らせることができる。また、残された家族の思いや、生き残ったものが何をしなければならぬかを考えさせることで、自分の命も相手の命も大切にしようという気持ちを高めることができる資料である。

(3) 準備物

〔教師〕 阪神淡路大震災の写真資料，効果音 CD，挿絵（拡大コピーしたもの）

ひまわりの花，プロジェクター，パソコン，ワークシート，振り返りシート

〔児童〕 副読本，筆記用具

(4) 指導過程（別紙 2）

(5) 評価

「はるかのひまわり」の意味を知り，自他の命を大切にしようとする気持ちが高まったか。

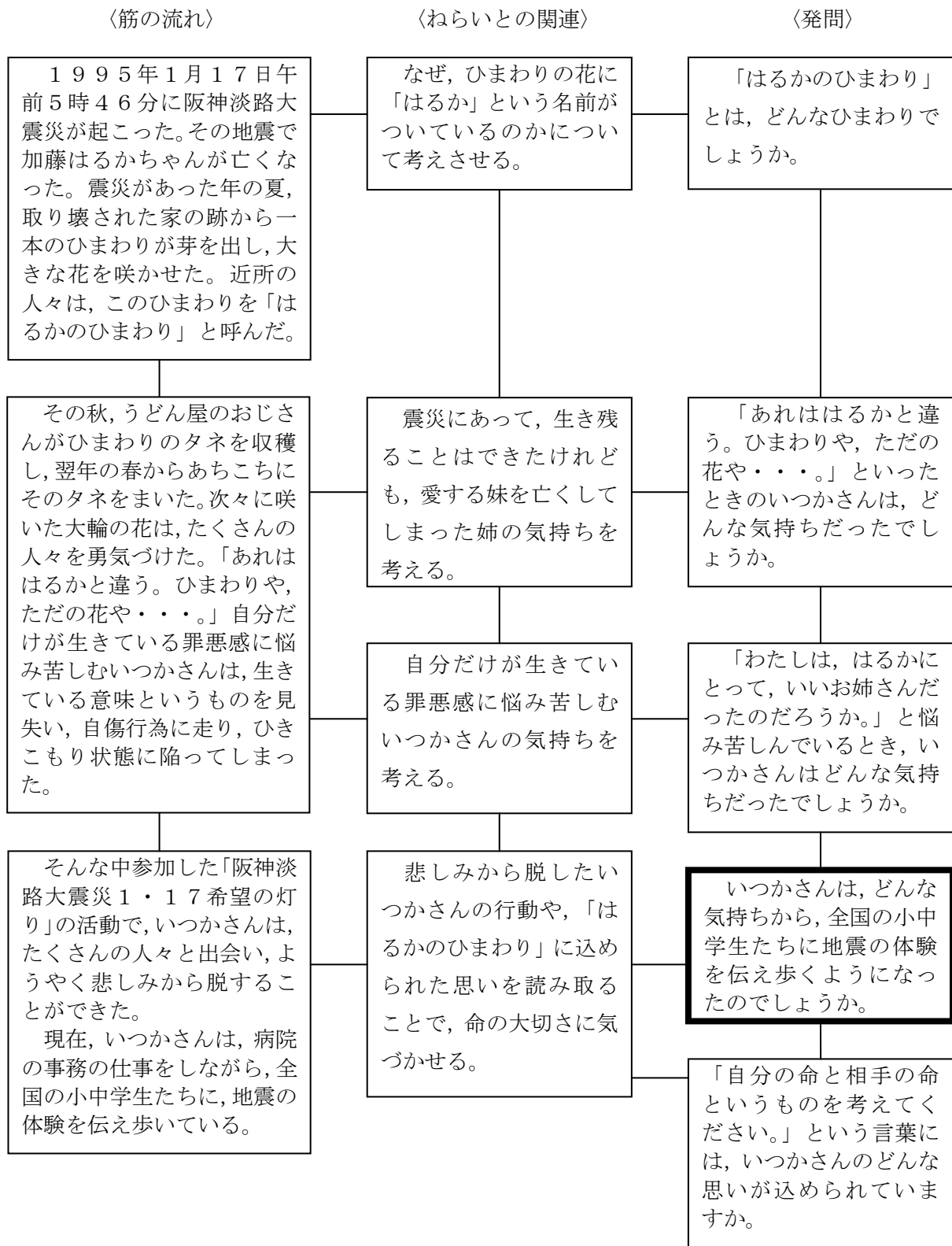
(6) 板書計画

<ul style="list-style-type: none">・ 互いに助け合って生きていこう。・ 自分の命も相手の命も大切である。	<p>はるかの ひまわり 写真</p>	<p>いつかさんが、全国の小中学生たちに地震の体験を伝え歩くようになった理由。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地震の怖さを伝えたい。・ 命を大切にしたい。	<p>52ページ 挿絵</p>	<p>「わたしは、はるかにとって、いいお姉さんだったのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none">・ 自分だけ生きて申し訳ない。・ 生きていてもつまらない。	<p>50ページ 挿絵</p>	<p>「あれははるかとは違う。ひまわりや、ただの花や・・・。」</p>	<p>はるかのひまわり</p>
--	-----------------------------	---	---------------------	--	---------------------	-------------------------------------	-----------------

4 資料

(1) 資料（別紙）

(2) 座席表（当日配付）



別紙2

3(4) 指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点	準備物・評価(方法)
導入 5分	<p>1. 「はるかのひまわり」とは、どんなひまわりなのか話し合う。</p> <p>「はるかのひまわり」とは、どんなひまわりでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はるかが育てたひまわり。 ・地震は怖いな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に興味をもたせるために、「はるかのひまわり」の写真と、ひまわりの花を準備する。 ・阪神淡路大震災の写真資料を見せることで、震災の恐ろしさをイメージさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はるかのひまわり」写真 ・ひまわりの花 ・阪神淡路大震災の写真資料
展開 35分	<p>2. 「はるかのひまわり」を読んで話し合う。</p> <p>(1) 愛する妹を亡くしてしまった姉の気持ちを考える。</p> <p>「あれははるかとは違う。ひまわりや、ただの花や・・・」といったときのいつかさんは、どんな気持ちだったでしょうか。</p> <p>(2) 自分だけが生きている罪悪感に悩み苦しむいつかさんの気持ちを考える。</p> <p>「わたしは、はるかにとって、いいお姉さんだったのだろうか」と悩み苦しんでいるとき、いつかさんはどんな気持ちだったでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の読み聞かせを聞く。 ・はるかは死んでしまった。 ・もう会えない。 ・自分だけ生きて申し訳ない。 ・生きていてもつまらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み聞かせでは、震災の様子をイメージさせ、登場人物の気持ちに共感させる手立てとして、効果音CDを活用する。 ・自分だったらどんな気持ちになるかと投げかけることで、いつかさんの気持ちに共感させる。 ・自分だけが生きている罪悪感に悩むいつかさんの気持ちを、体を傷つける、ひきこもるという言葉の説明しながら感じ取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果音CD ・挿絵

	<p>(3) つかさんが、全国の小中学生たちに地震の体験を伝え歩くようになった理由について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>つかさんは、どんな気持ちから、全国の小中学生たちに地震の体験を伝え歩くようになったのでしょうか。ワークシートに自分の考えを書きましょう。</p> </div> <p>(4)「自分の命と相手の命というものを考えてください。」とは、どういう意味か話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「自分の命と相手の命というものを考えてください。」という言葉には、つかさんのどんな思いが込められていますか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えを書く。 ・地震の怖さを伝えたい。 ・命を大切にしてほしい。 ・書いたものを発表し、それを基に、話し合いを深める。 ・前向きに生きていこう。 ・命を大切に生きていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりが自分の思いや考えを深めるために、書く活動を取り入れる。 ・発表の場や話し合いの時間を設けることで、意見の共有を図り、道徳的価値をより強く自分とのかかわりでとらえられるようにする。 ・「はるかひまわり」に込められた思いを考えさせ、命の大切さに気付かせる。 ・阪神淡路大震災の写真を見せながら、資料「被災者になって思ったこと」を読み聞かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・阪神淡路大震災の写真 ・資料「被災者になって思ったこと」
<p>終末5分</p>	<p>3. 絵本「ずーとずーとだいすきだよ」を読み聞かせる。</p> <p>4. 本時を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせを聞く。 ・振り返りシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値に対する思いを、更に深く心に留めさせるために、命に関する絵本を読み聞かせる。 ・振り返りシートを準備し活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート 「はるかひまわり」の意味を知り、自他の命を大切にしようとする気持ちが高まったか。(シート)

13. はるかのひまわり



4年	2組	番
名前		

◇ いつかさんは、どんな気持ちから全国の小学生や中学生に地震の体験を伝え歩くようになったのでしょうか。自分の考えを書きましょう。

A large dashed-line box for writing the answer.



13. はるかのひまわり



4年	2組	番
名前		

- ◇ 今日の道とくのじゅ業はどうでしたか。□に◎○△を書きましょう。
 [◎そう思う(たくさんあった) ○ふつう △あまりそう思わない(あまりなかった)]

	今日のお話（じゅぎょう）は、わかりやすかったですか。
	「あれは、はるかと違 ^{ちが} う。ひまわりや、ただの花や……。」と言った いつかさんの気持ちがわかりましたか。
	「自分の命と相手の命というものを、いつも大切に見つめる」ために、 気をつけたいと思ったことはありましたか。

- ◇ じゅぎょうのなかで、感じたことや考えたことがあったら書きましょう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....